

平成28年度 第4回
ひとにやさしいまちづくりに関する意識調査結果

岩手県保健福祉部地域福祉課

ひとにやさしいまちづくりに関するアンケートの結果について

I アンケートの趣旨

県では、「すべての県民が安心して生活し、かつ、等しく社会参加することができる豊かで住みよい地域社会の形成」を目指して、平成7年に「ひとにやさしいまちづくり条例」を制定し、これまで、誰もが利用しやすい建物、交通機関等の整備の促進や県民の方々に対するひとにやさしいまちづくりについての普及啓発を進めてきたところです。本調査は、今後の、県が進めるひとにやさしいまちづくりに関する施策の参考とするために実施しました。

II 調査実施期間

平成28年12月8日(木)～12月23日(金・祝)

III 調査方法

調査紙郵送またはインターネット

IV 調査対象

平成28年度希望郷いわてモニター279名

V 回答者数

218名

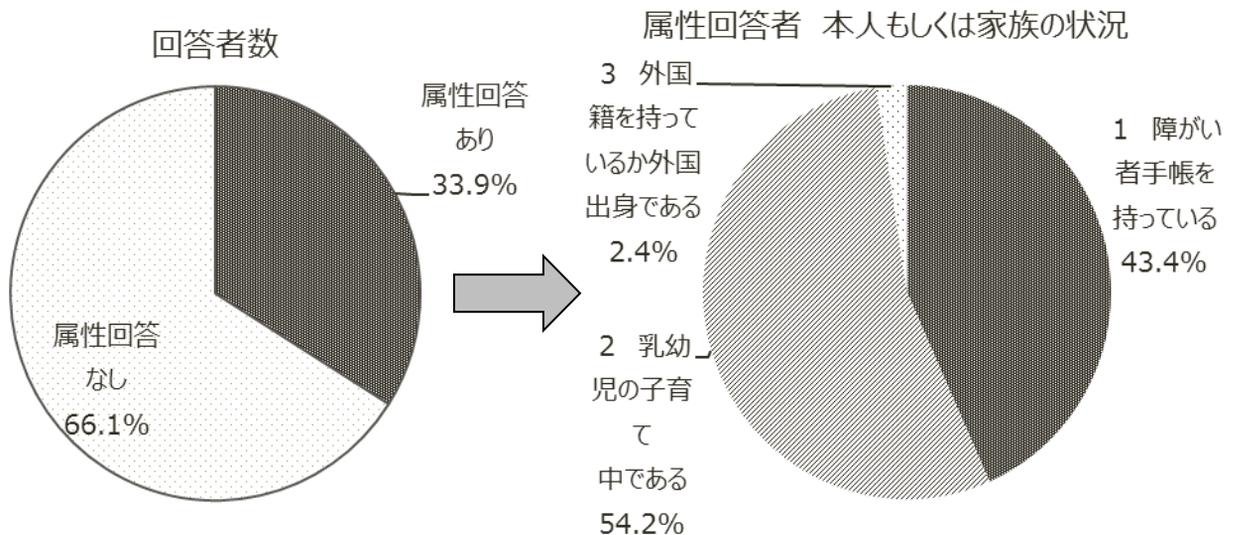
VI 回答率 78%

回答者の属性

	回答者数	比率
属性回答あり	74	33.9%
属性回答なし	144	66.1%
合計	218	100.0%

<属性の内訳> (重複あり)

	本人		家族		計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
1 障がい者手帳を持っている	11	13.3%	25	30.1%	36	43.4%
2 乳幼児の子育て中である	24	28.9%	21	25.3%	45	54.2%
3 外国籍を持っているか外国出身である	0	0.0%	2	2.4%	2	2.4%
合計	35	42.2%	48	57.8%	83	100.0%



【調査結果】

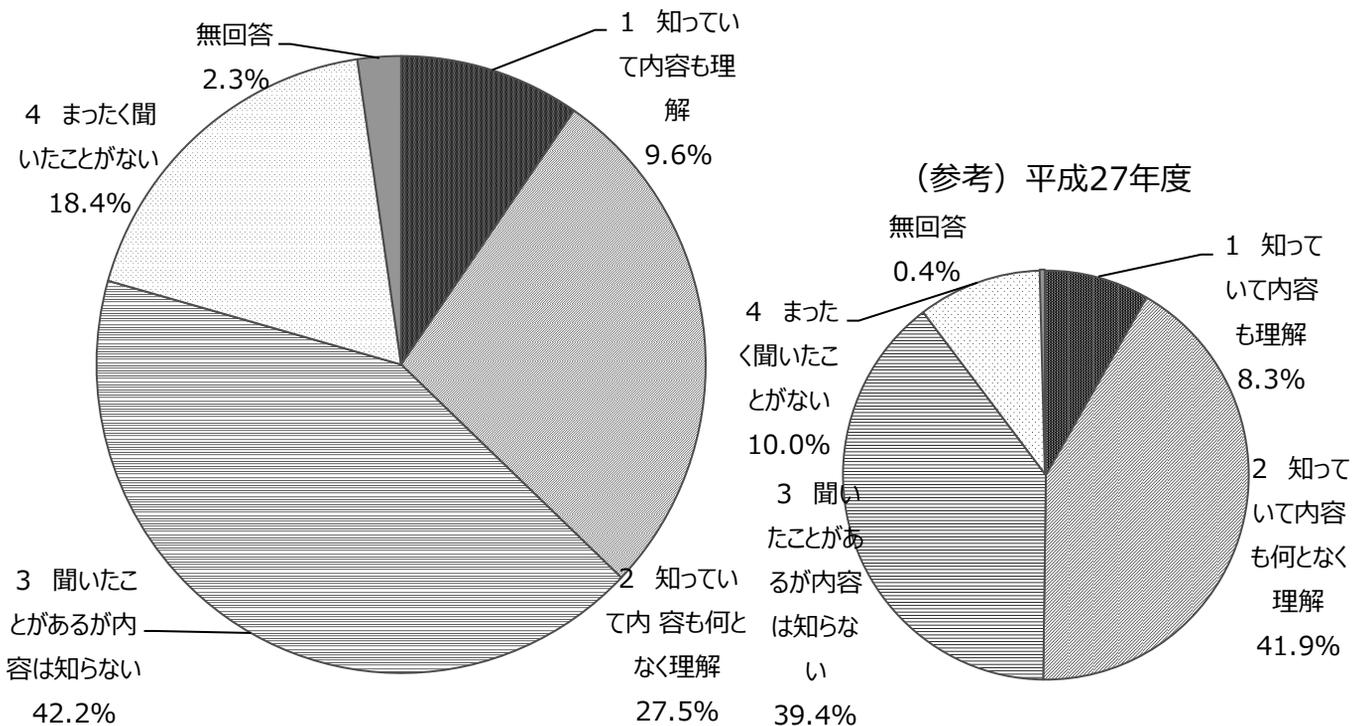
属性の回答があった方のうち、9割以上の方が、本人か家族が障がい者手帳を持っている又は乳幼児を子育て中である。

質問1

県の「ひとにやさしいまちづくり条例」や「ひとにやさしいまちづくり推進指針」について、知っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	28年度		27年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 知っていて内容も理解	21	9.6%	20	8.3%
2 知っていて内容も何となく理解	60	27.5%	101	41.9%
3 聞いたことがあるが内容は知らない	92	42.2%	95	39.4%
4 まったく聞いたことがない	40	18.4%	24	10.0%
無回答	5	2.3%	1	0.4%
合計	218	100.0%	241	100.0%

条例・推進指針等の周知状況



【結果概要】

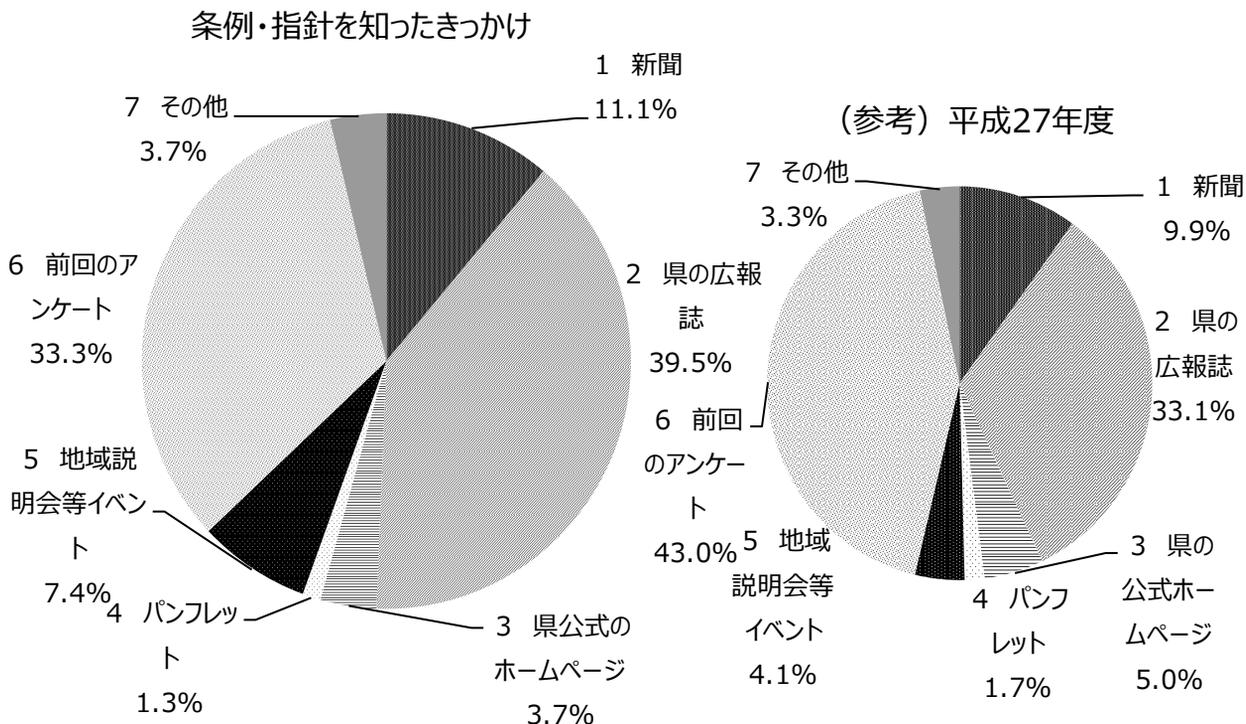
ひとにやさしいまちづくり条例や同推進指針について知っていて内容も理解している(「何となく理解」も含む。)方は4割程度であり、平成27年度と比べ、13.1ポイント下がった。

質問2

問1で①又は②を選択された方にお聞きします。「ひとにやさしいまちづくり条例」や「ひとにやさしいまちづくり推進指針」について知ったきっかけは何ですか。あてはまるものを1つ選んでください。

	28年度		27年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 新聞	9	11.1%	12	9.9%
2 県の広報誌	32	39.5%	40	33.1%
3 県の公式ホームページ	3	3.7%	6	5.0%
4 パンフレット	1	1.3%	2	1.7%
5 地域説明会等イベント	6	7.4%	5	4.1%
6 前回のアンケート	27	33.3%	52	43.0%
7 その他	3	3.7%	4	3.3%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
合計	81	100.0%	121	100.0%

<7その他の主な内容>
「大学の講義」など



【結果概要】

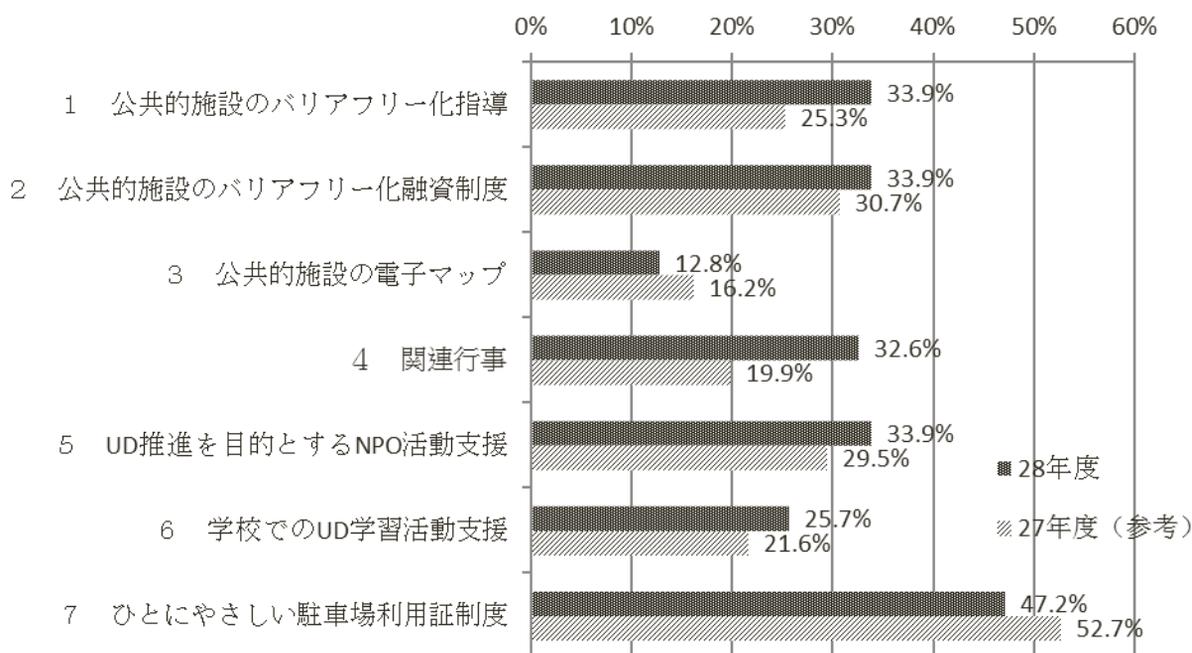
ひとにやさしいまちづくり条例や同推進指針を知ったきっかけとして、広報誌を挙げるケースが多く、今後も啓発を継続する必要がある。

質問3

県では、前記の条例に基づき、以下の事業を展開していますが、見たり聞いたりしたことのあるもの、利用したことのあるものを全て選んでください。（複数回答、比率は回答者実数に対するもの）

	28年度		27年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 公共的施設のバリアフリー化指導	74	33.9%	61	25.3%
2 公共的施設のバリアフリー化融資制度	74	33.9%	74	30.7%
3 公共的施設の電子マップ	28	12.8%	39	16.2%
4 関連行事	71	32.6%	48	19.9%
5 UD推進を目的とするNPO活動支援	74	33.9%	71	29.5%
6 学校でのUD学習活動支援	56	25.7%	52	21.6%
7 ひとにやさしい駐車場利用証制度	103	47.2%	127	52.7%
(回答者実数計)	218	-	241	-

事業の周知割合



【調査結果】

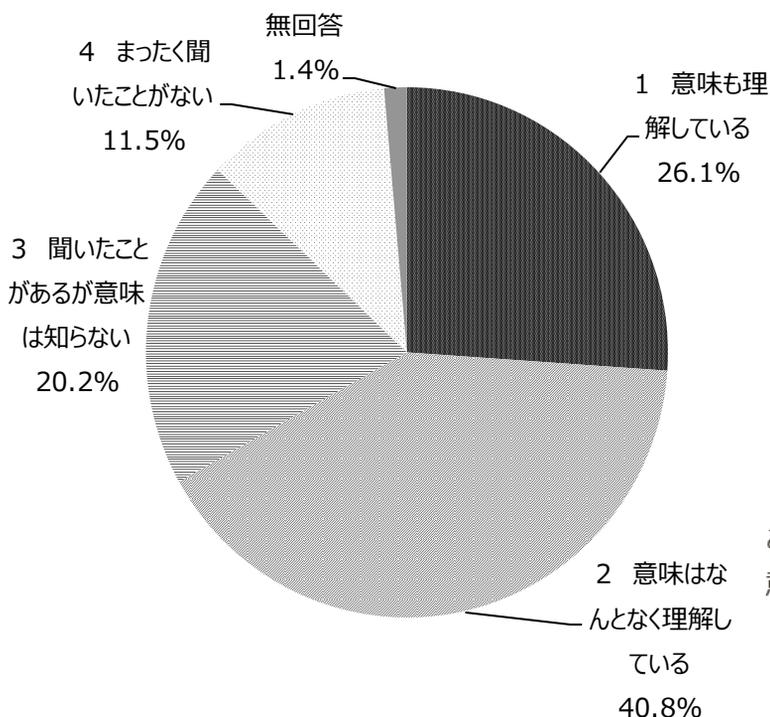
平成22年度から取り組んでいる「ひとにやさしい駐車場利用証制度」の認知度は47.2%と突出している。

質問4

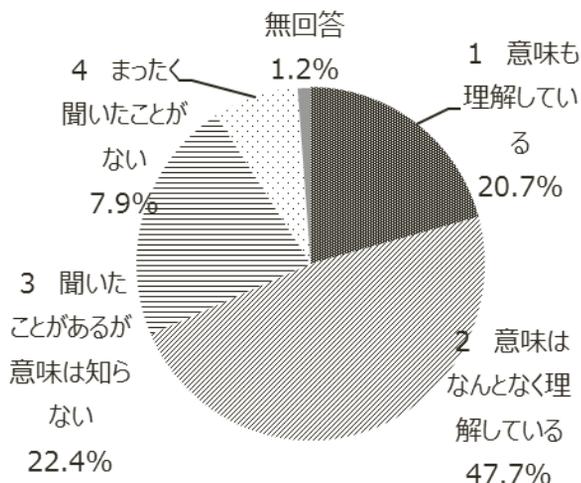
「ユニバーサルデザイン」という言葉を知っていますか。

	28年度		27年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 意味も理解している	57	26.1%	50	20.7%
2 意味はなんとなく理解している	89	40.8%	115	47.7%
3 聞いたことがあるが意味は知らない	44	20.2%	54	22.4%
4 まったく聞いたことがない	25	11.5%	19	7.9%
無回答	3	1.4%	3	1.2%
	218	100.0%	241	100.0%

ユニバーサルデザインの理解度



(参考) 平成27年度



【調査結果】

平成27年度に引き続き、「ユニバーサルデザイン」という言葉を聞いたことがあり、意味を理解(「なんとなく理解」も含む。)している方の割合は7割程度であり、依然として3割程度の方々には理解されているとは言い難い状況にある。

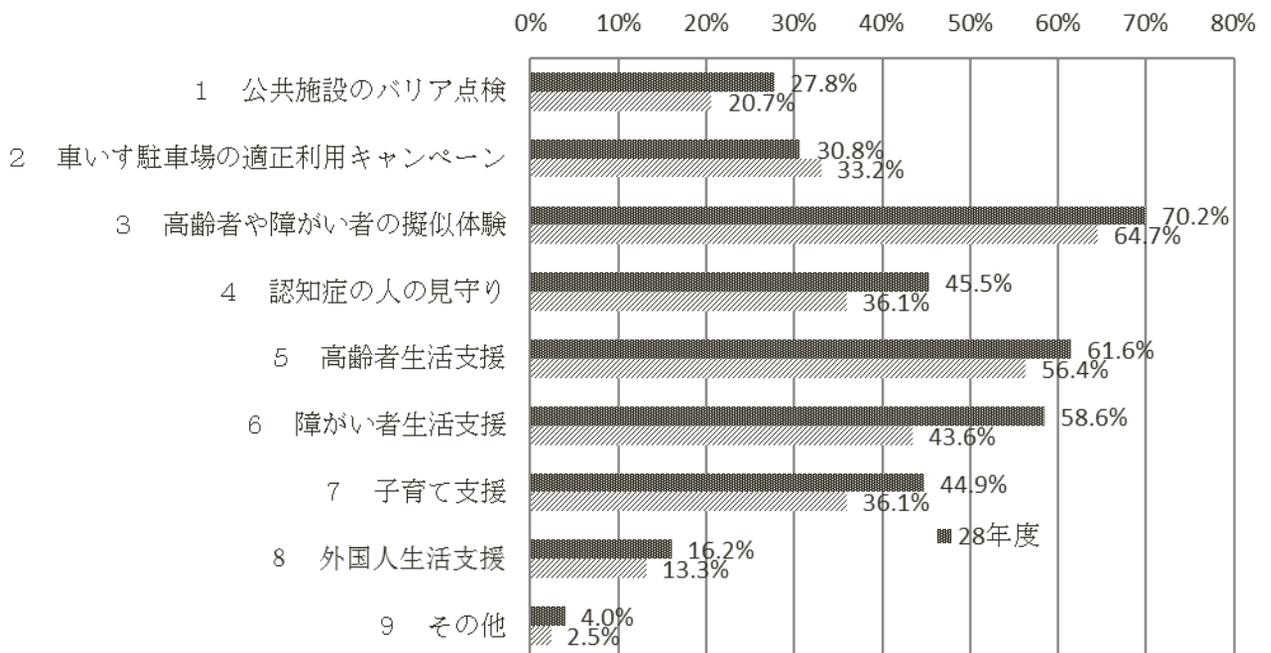
質問5

まちで、以下の活動や、その活動に取り組む民間団体・グループを見たり聞いたり、実際に参加したことがありますか。あてはまるものを全て選んでください。

	28年度		27年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 公共施設のバリア点検	55	27.8%	50	20.7%
2 車いす駐車場の適正利用キャンペーン	61	30.8%	80	33.2%
3 高齢者や障がい者の疑似体験	139	70.2%	156	64.7%
4 認知症の人の見守り	90	45.5%	87	36.1%
5 高齢者生活支援	122	61.6%	136	56.4%
6 障がい者生活支援	116	58.6%	105	43.6%
7 子育て支援	89	44.9%	87	36.1%
8 外国人生活支援	32	16.2%	32	13.3%
9 その他	8	4.0%	6	2.5%
(回答者実数計)	198	-	241	-

<9その他の内容>

- 経済的に困窮している世帯への支援
- 地域介護予防活動支援事業へサポーターとして参加



【調査結果】

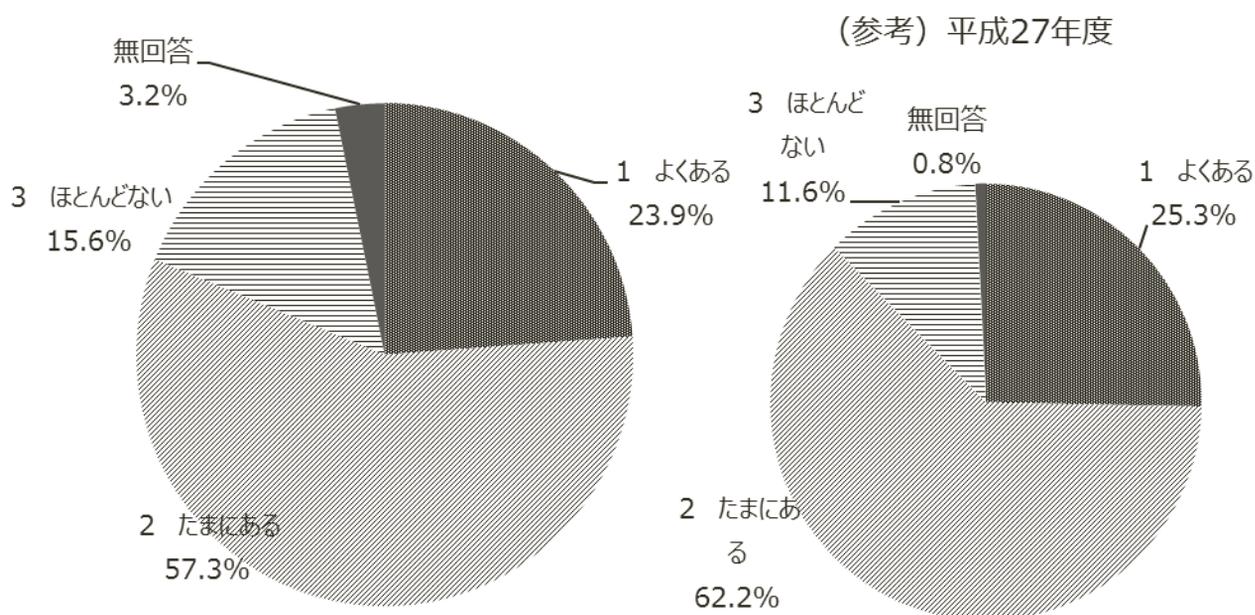
平成27年度に引き続き「高齢者や障がい者の疑似体験」と「高齢者・障がい者の生活支援」と答えた方が多い。

質問6

まちの中の「ハード」(公共的施設、道路など)にバリア(障壁)を感じることはありますか。
あてはまるものを1つ選んでください。

	28年度		27年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 よくある	52	23.9%	61	25.3%
2 たまにある	125	57.3%	150	62.2%
3 ほとんどない	34	15.6%	28	11.6%
無回答	7	3.2%	2	0.8%
計	218	100.0%	241	100.0%

まちの「ハード面」のバリアを感じる機会



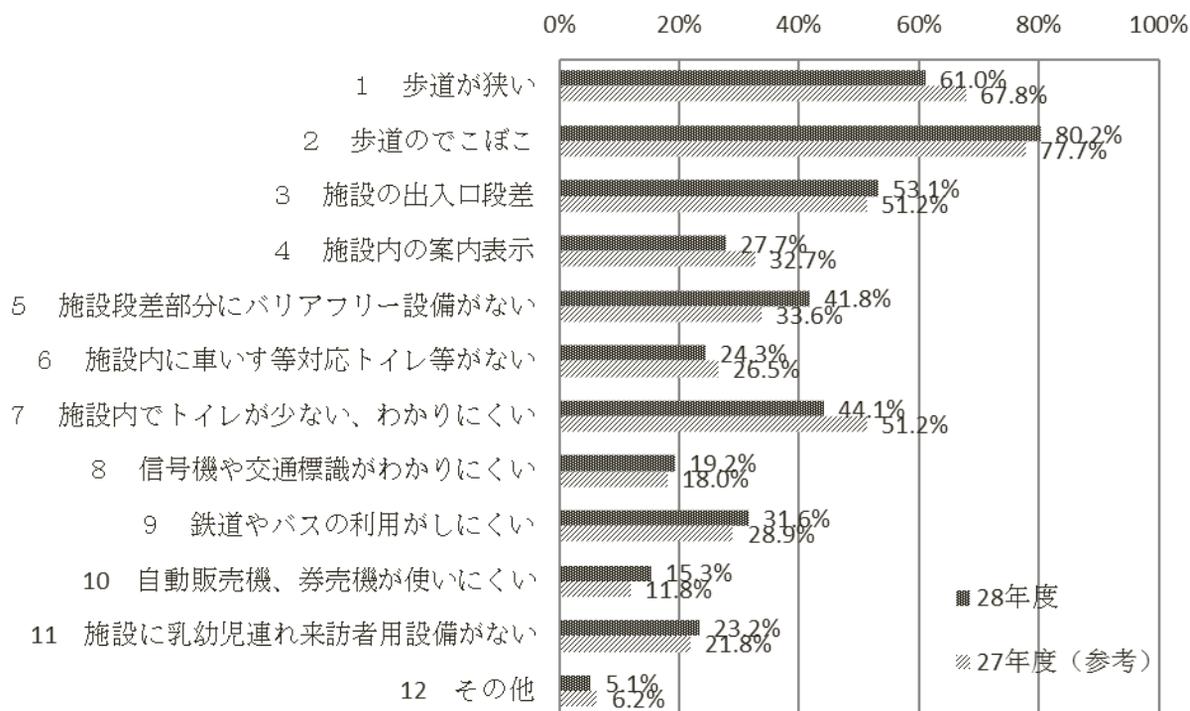
【調査結果】

平成27年度と比較して、「よくある」または「たまにある」と回答した方の割合がやや減少(-6.3ポイント)しているものの、まちの中にまだたくさんのハード面のバリアが存在し、多くの方が不便を感じていることが伺える。

質問7

問6で①又は②を選択された方にお聞きします。バリアを感じるのとはどのようなことですか。あてはまるものを5つ選んでください。(複数回答、比率は回答者実数に対するもの)

	28年度		27年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 歩道が狭い	108	61.0%	143	67.8%
2 歩道のでこぼこ	142	80.2%	164	77.7%
3 施設の出入口段差	94	53.1%	108	51.2%
4 施設内の案内表示	49	27.7%	69	32.7%
5 施設段差部分にバリアフリー設備がない	74	41.8%	71	33.6%
6 施設内に車いす等対応トイレ等がない	43	24.3%	56	26.5%
7 施設内でトイレが少ない、わかりにくい	78	44.1%	108	51.2%
8 信号機や交通標識がわかりにくい	34	19.2%	38	18.0%
9 鉄道やバスの利用がしにくい	56	31.6%	61	28.9%
10 自動販売機、券売機が使いにくい	27	15.3%	25	11.8%
11 施設に乳幼児連れ来訪者用設備がない	41	23.2%	46	21.8%
12 その他	9	5.1%	13	6.2%
(回答者実数計)	177	—	211	—



【調査結果】

歩道、施設の出入り口段差、トイレの数や案内表示、公共交通機関への不満が多く、全体的な傾向は変化していない。

＜12その他の内容＞

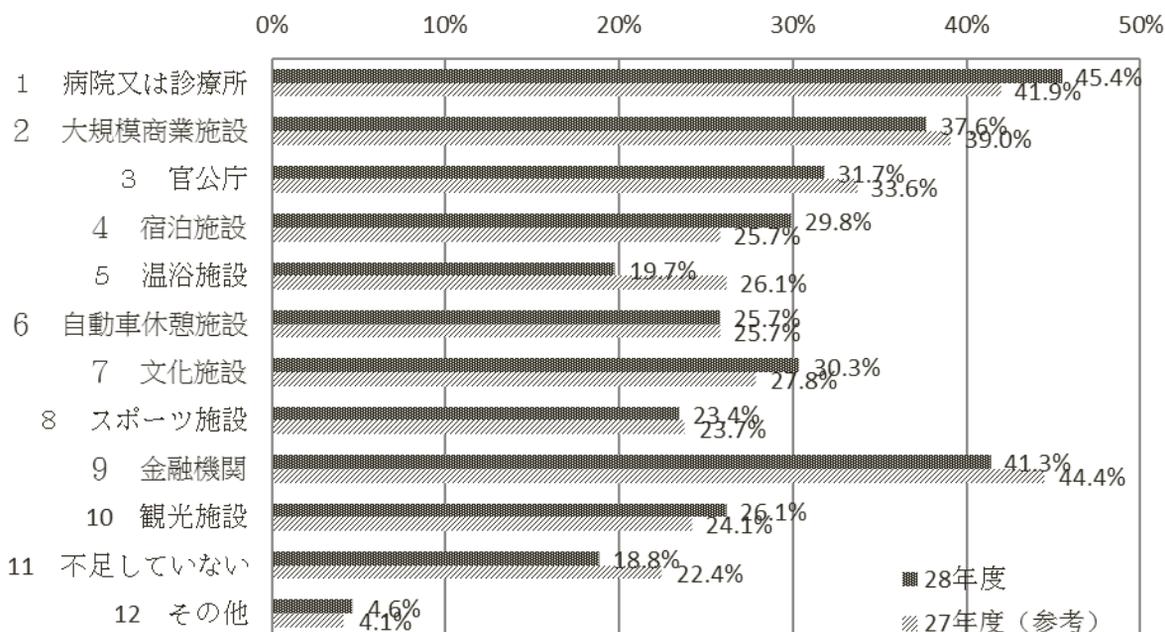
- 聴覚障がい者や外国人を想定した案内表示等の対応が不十分。
- 歩道の傍にある植木や花壇等の出っ張りが危険なところがある。
- 古い建物は使いづらい。
- 基本は全てバリアだと考える。
- 公共的施設に授乳スペースやおむつ交換スペースがあっても使いづらい。

質問8

同じく問6で①又は②を選択された方にお聞きします。バリアを感じたことのある施設を全て選んでください。

	28年度		27年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 病院又は診療所	62	35.0%	82	39.2%
2 大規模商業施設	67	37.9%	76	36.4%
3 官公庁	81	45.8%	87	41.6%
4 宿泊施設	69	39.0%	76	36.4%
5 温浴施設	51	28.8%	68	32.5%
6 公共交通機関	91	51.4%	96	45.9%
7 自動車休憩施設	34	19.2%	55	26.3%
8 文化施設	69	39.0%	83	39.7%
9 スポーツ施設	65	36.7%	65	31.1%
10 金融機関	64	36.2%	69	33.0%
11 観光施設	61	34.5%	79	37.8%
12 その他	15	8.5%	10	4.8%
(回答者実数計)	177	—	209	—

車いす駐車区画が不足している施設



【調査結果】

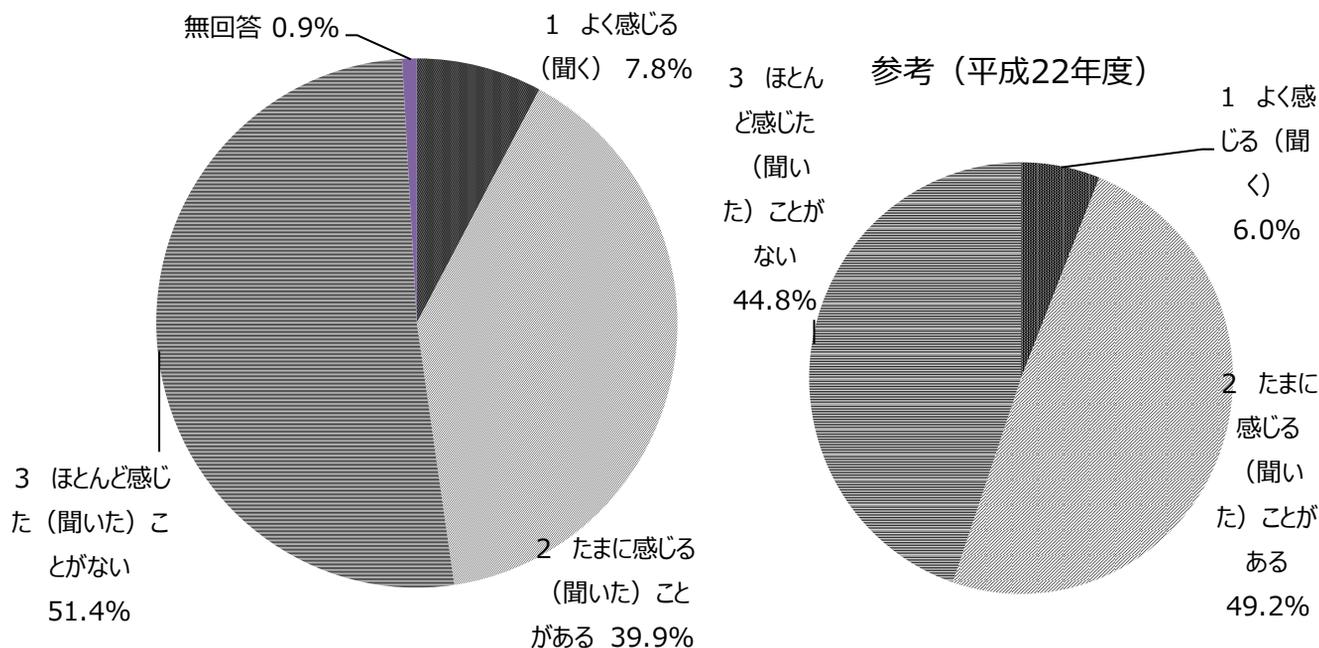
公共交通機関、官公庁については4割以上の方が何らかのバリアを感じたことがある。また、宿泊施設、文化施設、大規模商業施設も比較的高い割合を示している。

質問9

公共的施設の「ソフト」の対応（従業員による車いす用トイレやスロープ等バリアフリー設備の適切な管理、車いすの適切な取扱い等介助の技術、言語による意思疎通が困難な方に対する適切な対応等）で不便さや不満を感じたこと、あるいは身近な方から不便さや不満を聞かれたことはありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	28年度		22年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 よく感じる(聞く)	17	7.8%	15	6.0%
2 たまに感じる(聞いた)ことがある	87	39.9%	123	49.2%
3 ほとんど感じた(聞いた)ことがない	112	51.4%	112	44.8%
無回答	2	0.9%	0	0.0%
計	218	100.0%	250	100.0%

公共的施設の「ソフト」の対応で不便さ等を感じる機会



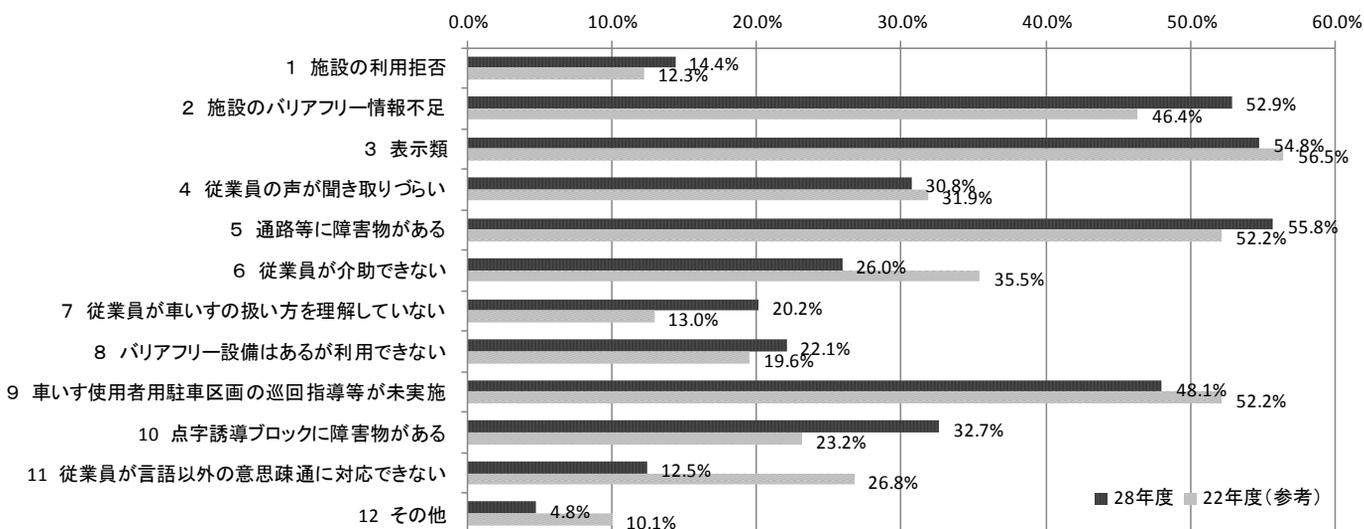
【調査結果】

平成22年度と比較して、「よく感じる」または「たまに感じる」と回答した方の割合がやや減少(-7.5ポイント)している。

質問10

問9で①又は②を選択された方にお聞きします。「ソフト」の対応に不便さや不満を感じた(身近な方から聞いた)ことはどのようなことですか。あてはまるものを5つ選んでください。

	28年度		22年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 施設の利用拒否	15	14.4%	17	12.3%
2 施設のバリアフリー情報不足	55	52.9%	64	46.4%
3 表示類	57	54.8%	78	56.5%
4 従業員の声が聞き取りづらい	32	30.8%	44	31.9%
5 通路等に障害物がある	58	55.8%	72	52.2%
6 従業員が介助できない	27	26.0%	49	35.5%
7 従業員が車いすの扱い方を理解していない	21	20.2%	18	13.0%
8 バリアフリー設備はあるが利用できない	23	22.1%	27	19.6%
9 車いす使用者用駐車区画の巡回指導等が未実施	50	48.1%	72	52.2%
10 点字誘導ブロックに障害物がある	34	32.7%	32	23.2%
11 従業員が言語以外の意思疎通に対応できない	13	12.5%	37	26.8%
12 その他	5	4.8%	14	10.1%
(回答者実数計)	104	—	138	—



【調査結果】

平成22年度と同様に、通路等に障害物があること、表示類の見づらさ、施設のバリアフリー情報の不足が比較的高い割合を示している。

<12その他の内容>

- 接遇の基本、出発点である「気づき」が希薄すぎるのが根底にあると感じる。
- 予算の都合もありハード面の整備は難しいかもしれないが、バリアフリー設備がないからできないということではなく、ソフト面に対応できることについてもっとPRすべきだと思う。
- イスが固定されているレストランや食堂があるので入りづらいし、高齢者にやさしいメニューも用意されていない。
- スロープや手すりが破損しているにも関わらず放置されている、又は修理に時間がかかる。

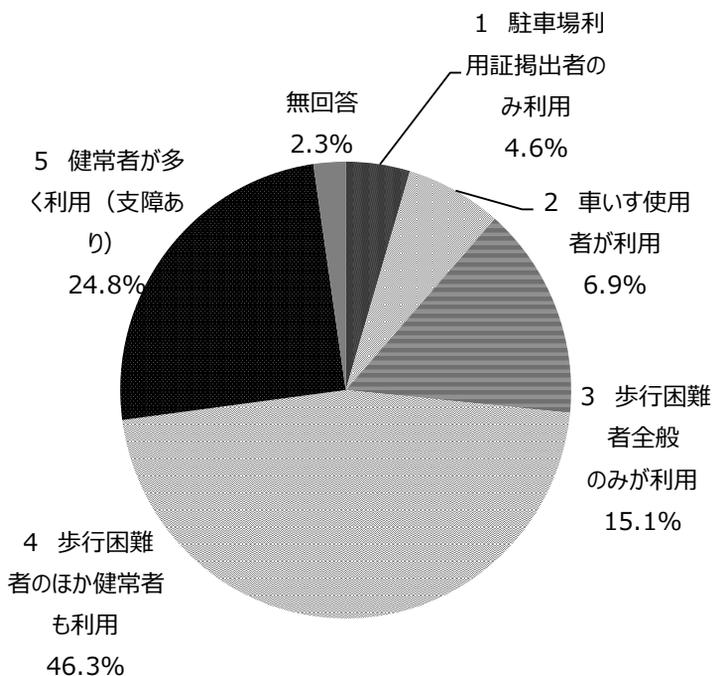
質問11

公共的施設には、車いすを使用される方や様々な状況で歩行が困難な方向けに「車いす駐車区画」が設けられています。

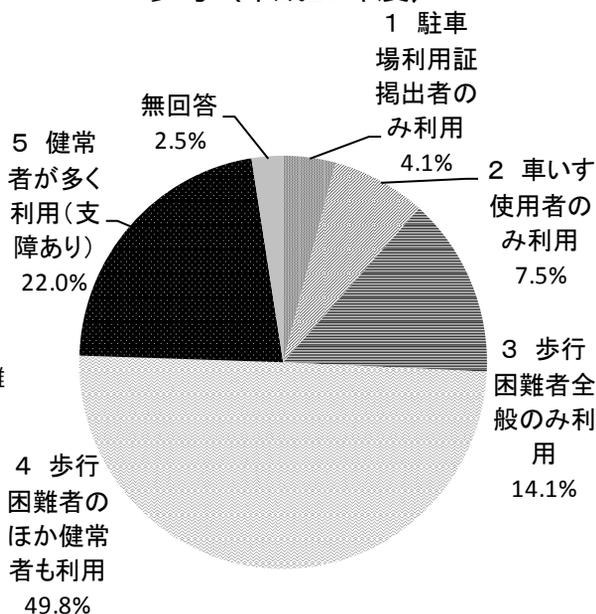
最近の車いす駐車区画の一般的な利用状況について、どのように感じていますか。
あてはまるものを1つ選んでください。

	28年度		27年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 駐車場利用証掲出者のみ利用	10	4.6%	10	4.1%
2 車いす使用者のみ利用	15	6.9%	18	7.5%
3 歩行困難者全般のみ利用	33	15.1%	34	14.1%
4 歩行困難者のほか健常者も利用	101	46.3%	120	49.8%
5 健常者が多く利用(支障あり)	54	24.8%	53	22.0%
無回答	5	2.3%	6	2.5%
計	218	100.0%	241	100.0%

車いす駐車場適正利用の状況



参考 (平成27年度)



【調査結果】

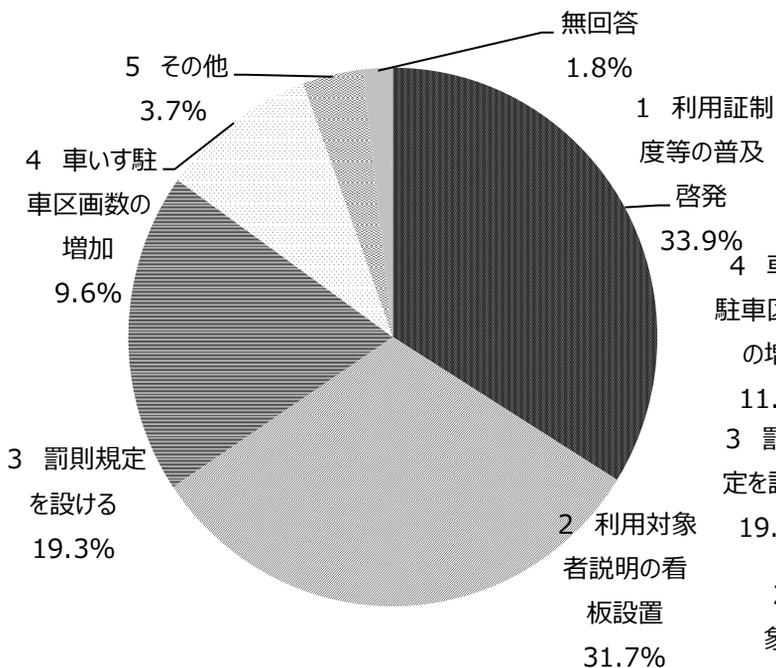
平成27年度と比較して、望ましい利用状況(「駐車場利用証掲出者のみ」「車いす使用者のみ」「歩行困難者全般のみ」)の割合がやや増加(+0.9ポイント)しているが、依然として7割程度の方が、健常者の利用があると回答している。

質問12

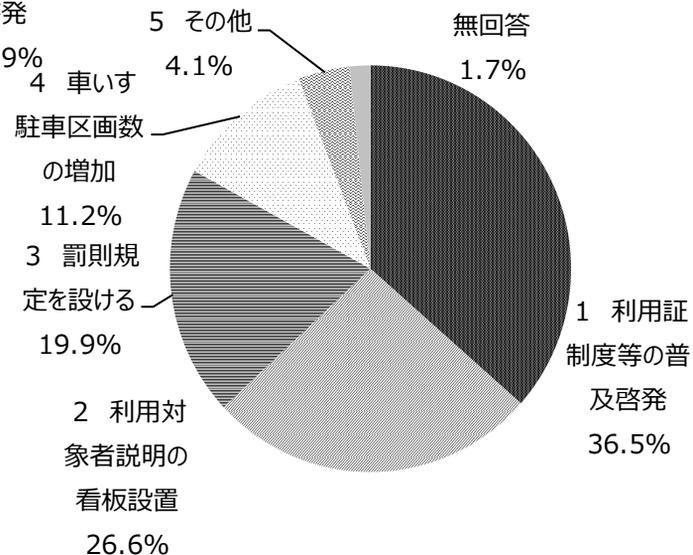
車いす駐車区画を車いす使用者や高齢者、障がい者、妊婦等歩行困難な方が支障なく利用できるようにするには、どのようにしたらよいと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	28年度		27年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 利用証制度等の普及啓発	74	33.9%	88	36.5%
2 利用対象者説明の看板設置	69	31.7%	64	26.6%
3 罰則規定を設ける	42	19.3%	48	19.9%
4 車いす駐車区画数の増加	21	9.6%	27	11.2%
5 その他	8	3.7%	10	4.1%
無回答	4	1.8%	4	1.7%
計	218	100.0%	241	100.0%

車いす駐車区画適正利用のための方策



参考 (平成27年度)



【調査結果】

平成27年度に引き続き、利用証制度等の普及啓発と、車いす駐車区画利用対象者の説明看板を設置するよう求める声が多い。

＜5その他の内容＞

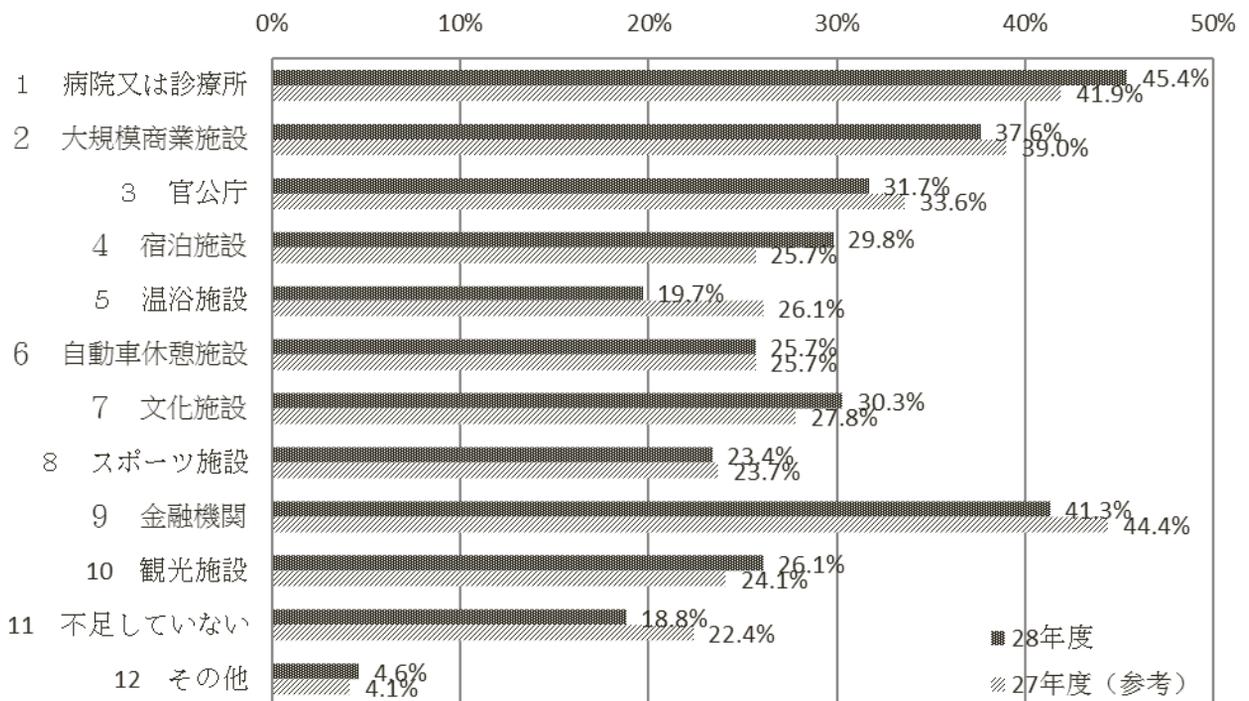
- 看板等を見えやすく設置
- 表示に工夫が必要
- 学校教育に取り入れる。
- 運転免許の交付時に説明
- 駐車場管理者による見回り、啓発、違反者への注意
- イベントなど多角的な取組
- 駐車区画を赤や青などで塗装し、遠くからでもわかりやすいような工夫を行う。

質問13

次の施設のうち、車いす駐車区画が不足していると思われる施設を全て選んでください。

	28年度		27年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 病院又は診療所	99	45.4%	101	41.9%
2 大規模商業施設	82	37.6%	94	39.0%
3 官公庁	69	31.7%	81	33.6%
4 宿泊施設	65	29.8%	62	25.7%
5 温浴施設	43	19.7%	63	26.1%
6 自動車休憩施設	56	25.7%	62	25.7%
7 文化施設	66	30.3%	67	27.8%
8 スポーツ施設	51	23.4%	57	23.7%
9 金融機関	90	41.3%	107	44.4%
10 観光施設	57	26.1%	58	24.1%
11 不足していない	41	18.8%	54	22.4%
12 その他	10	4.6%	10	4.1%
(回答者実数計)	218	-	241	-

車いす駐車区画が不足している施設



【調査結果】

病院、金融機関、大規模商業施設の順に車いす駐車区画の不足感が高い。

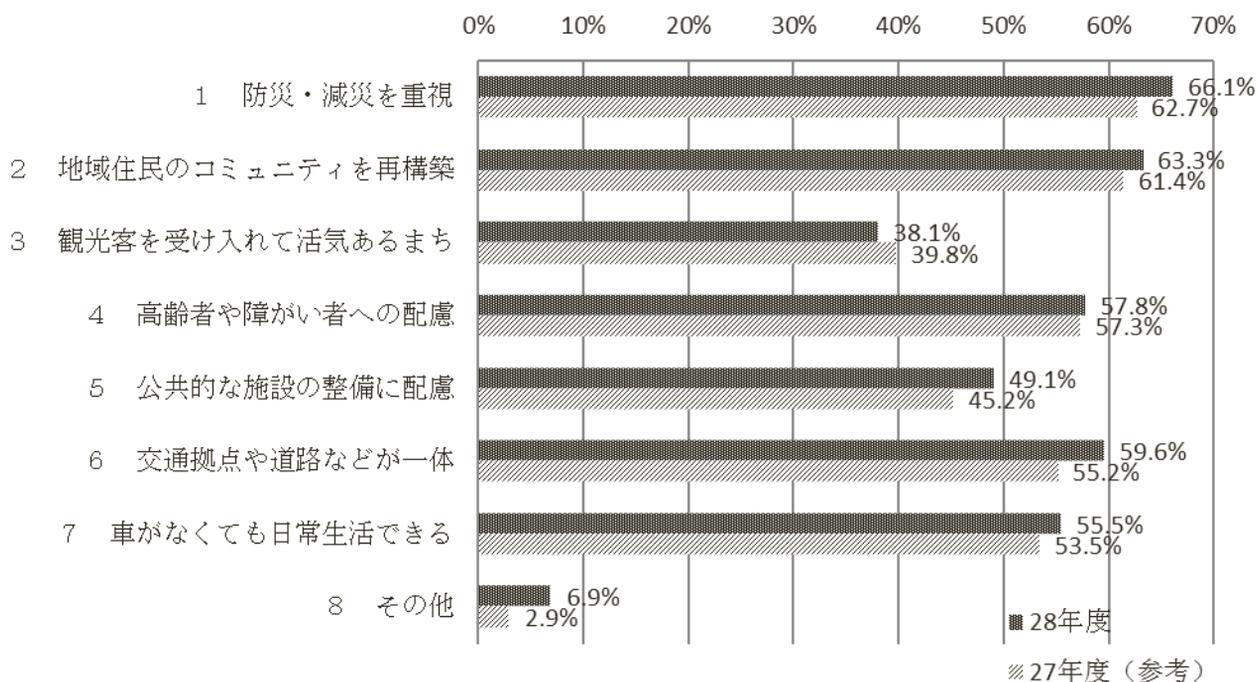
<12その他の内容>

- 小さな町でも(小さな町だからこそ)気配りをしてほしい。
- 需要の程度が分からず、また、身近で困っているということを聞いたことがないので、不足しているかどうか分からない。車いす利用者などに聞くべきだと思う。
- 映画館や市民会館
- 駐車区画から施設への動線が無理のないようにするなど、総合的に考えて設置する必要がある。

質問14-1

東日本大震災津波からの復興に必要なまちづくりの考え方で重要だと思われることは何ですか。あてはまるものを全て選んでください。

	28年度		27年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 防災・減災を重視したまちづくり	144	66.1%	151	62.7%
2 地域住民のコミュニティが再構築できるまちづくり	138	63.3%	148	61.4%
3 観光客を受け入れて活気のあるまちづくり	83	38.1%	96	39.8%
4 高齢者や障がい者への配慮があるひとにやさしいまちづくり	126	57.8%	138	57.3%
5 これから建設される公共的な施設の整備に配慮した、だれでも利用しやすい施設を中心としたまちづくり	107	49.1%	109	45.2%
6 公共的な建物や施設だけでなく、交通拠点や道路などが一体となった暮らしやすいまちづくり	130	59.6%	133	55.2%
7 車がなくても日常生活ができるまちづくり	121	55.5%	129	53.5%
8 その他	15	6.9%	7	2.9%
(回答者実数計)	218	—	241	—



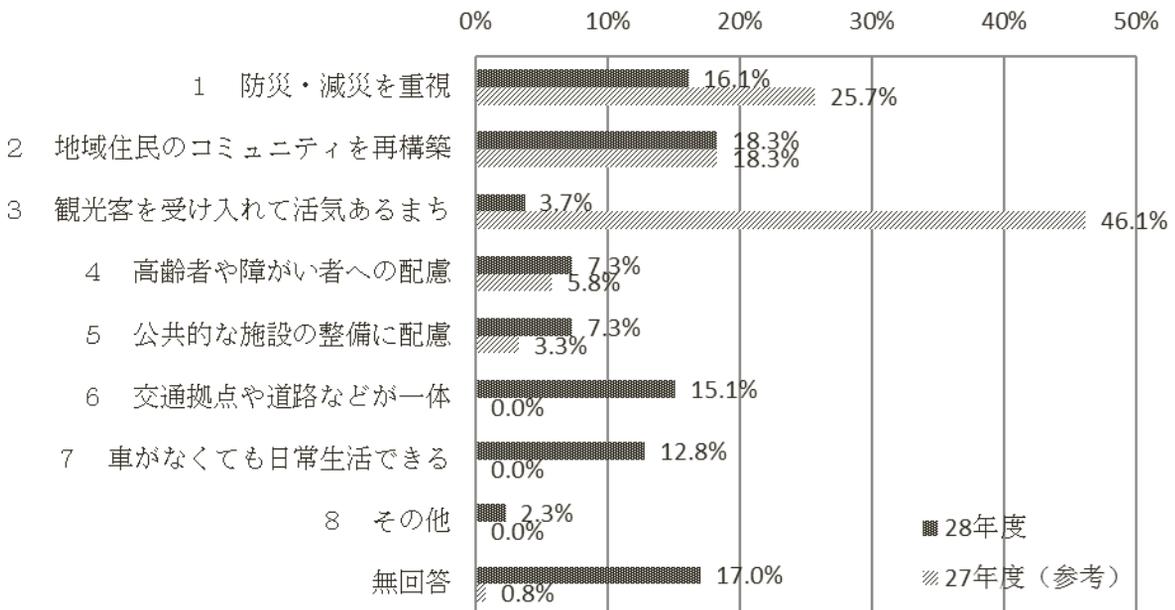
【調査結果】

平成27年度と同様に、「防災・減災」の安全面を重視する意見が最も多い。続いて、「地域住民のコミュニティ再構築」、「建物だけでなく、交通拠点や道路などが一体となった暮らしやすいまちづくり」、「高齢者や障がい者への配慮があるまちづくり」の割合が高く、ハード面とソフト面が一体となったまちづくりが望まれている。

質問14-2

さらに、その中で最も重要だと思われるものを1つ選んでください。

	28年度		27年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 防災・減災を重視したまちづくり	35	16.1%	62	25.7%
2 地域住民のコミュニティが再構築できるまちづくり	40	18.3%	44	18.3%
3 観光客を受け入れて活気のあるまちづくり	8	3.7%	111	46.1%
4 高齢者や障がいのある者への配慮があるひとにやさしいまちづくり	16	7.3%	14	5.8%
5 これから建設される公共的な施設の整備に配慮した、だれでも利用しやすい施設を中心としたまちづくり	16	7.3%	8	3.3%
6 公共的な建物や施設だけでなく、交通拠点や道路などが一体となった暮らしやすいまちづくり	33	15.1%	0	0.0%
7 車がなくても日常生活ができるまちづくり	28	12.8%	0	0.0%
8 その他	5	2.3%	0	0.0%
無回答	37	17.0%	2	0.8%
(回答者実数計)	218	-	241	-



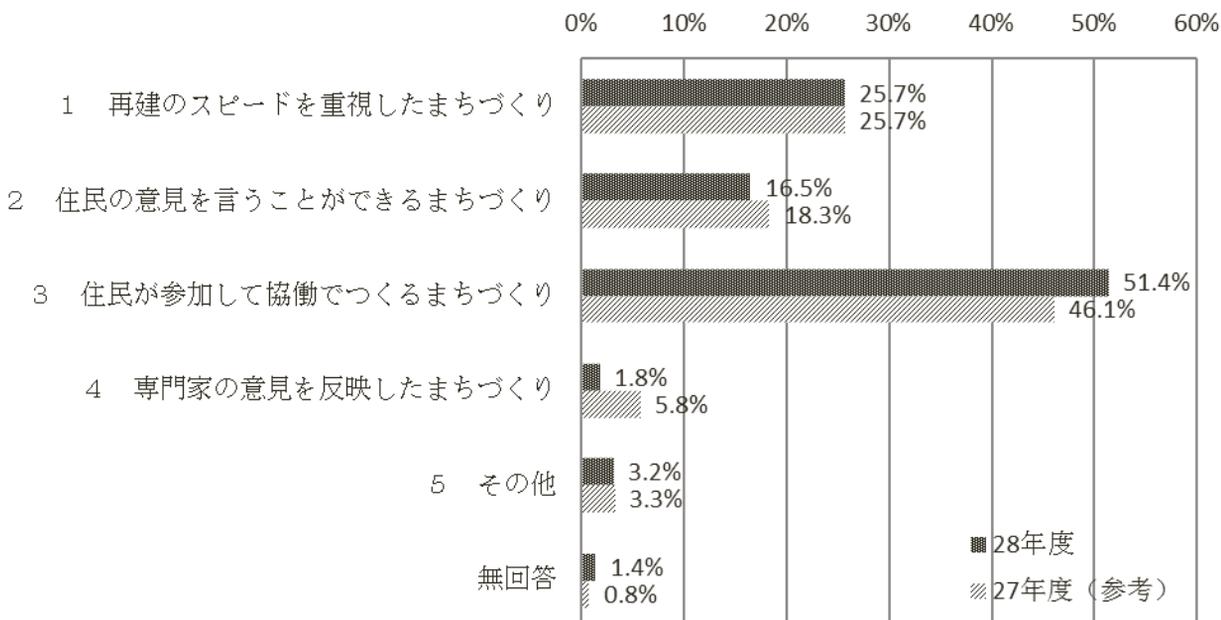
【調査結果】

平成27年度に引き続き、「地域住民のコミュニティの再構築」、「防災・減災」の割合が高く、安心して豊かに生活できるまちづくりが望まれている。

質問15

東日本大震災津波からの復興に必要なまちづくりの進め方として、特に重要だと思われることは何ですか。あてはまるものを1つ選んでください。

	28年度		27年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 再建のスピードを重視したまちづくり	56	25.7%	62	25.7%
2 住民の意見を言うことができるまちづくり	36	16.5%	44	18.3%
3 住民が参加して協働でつくるまちづくり	112	51.4%	111	46.1%
4 専門家の意見を反映したまちづくり	4	1.8%	14	5.8%
5 その他	7	3.2%	8	3.3%
無回答	3	1.4%	2	0.8%
(回答者実数計)	218	—	241	—



【調査結果】

平成27年度に引き続き、「住民参加・協働」と「再建のスピード重視」が多いが、平成27年度と比較して、「住民参加・協働」を重視する意見が多くなっている。

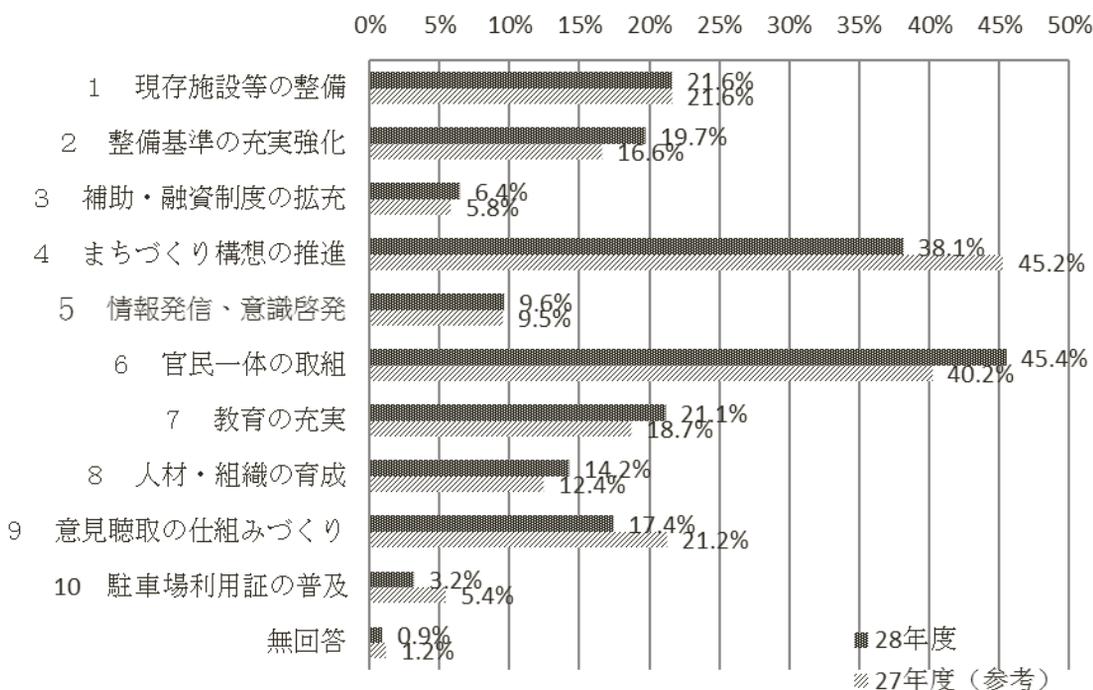
＜5その他の内容＞

- 住宅・農地の点在はやむを得ないが、医療機関、役所、商業施設が集約し、ワンストップで可能となるまちづくりが望ましい。
- 住民の意見を尊重しすぎて、まとまらず時間がかかってしまう。モデルケースを示した方がよい。
- 子ども、高齢者に寄り添った環境を整えることが必要。

質問16

今後、誰もが暮らしやすい「ひとにやさしいまちづくり」を進めていくうえで、施策として特に重要だと思われることは何ですか。あてはまるものを2つ選んでください。（複数回答、比率は回答者実数に対するもの）

	28年度		27年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 現存施設等の整備	47	21.6%	52	21.6%
2 整備基準の充実強化	43	19.7%	40	16.6%
3 補助・融資制度の拡充	14	6.4%	14	5.8%
4 まちづくり構想の推進	83	38.1%	109	45.2%
5 情報発信、意識啓発	21	9.6%	23	9.5%
6 官民一体の取組	99	45.4%	97	40.2%
7 教育の充実	46	21.1%	45	18.7%
8 人材・組織の育成	31	14.2%	30	12.4%
9 意見聴取の仕組みづくり	38	17.4%	51	21.2%
10 駐車場利用証の普及	7	3.2%	13	5.4%
無回答	2	0.9%	3	1.2%
(回答者実数計)	218	—	241	—



【調査結果】

平成27年度に続き、「官民一体となった取組」、「まちづくりの構想の推進」が多い。「現存施設等の整備」や「教育の充実」の割合も比較的高い割合を示している。

<17ご意見ご要望自由記載>その1

- 東日本大震災からの復興に係る公共設備等はまだ建設されていない。新しくできる公共施設は、できる限りハンディキャップのある方々の意見を反映させたものであってほしい。
- 車いす使用者用駐車場の適正利用のためには、ルールを厳しくしたほうが良い。例えば、罰金を支払って嫌な思いをすることで、この駐車区画について理解する一つのきっかけになりうるのではないかと思う。また、ルール以外にも、子どもの頃から教育に取り入れることも重要だと考える。
- 高齢社会が進む中、車がなければどこへも行けない町ではなく、誰もが身近に豊かな生活を楽しめるコンパクトシティの構築が望ましいと思う。
- 障がい者・高齢者などの弱者を支援する取組については、市町村単位でまとまって行動を起こすことが望ましい。
- 町内会活動してみると、会費さえ払えば誰かがやってくれるという解釈の方が多く、共に支え合うという感覚がない。結局は、家庭内の教育力が低く、又は教える暇がないほど共働きで忙しいという背景もあるので、職場や企業にも理解してもらう必要があると思う。
- 高齢者がさらに増えるので、車がなくても生活しやすく、見やすいデザインで心配のないまちづくりが望まれる。もともと車のない方も、車を手放す方も、無料で交通機関を使えるようになると良い。
- 現状のまちを分析することが重要。今のまちは、点(住民)が孤立している「点のまち」と考える。「ひとにやさしいまちづくり」とは、点と点がいくつもの線でつながっている「線のまち」だと思う。超高齢社会の日本において、今、必要なことは、住民同士を線でつなげるまちづくりに向けて、住民の意識を変えることである。住民の意識が変わり、地域が変わり、その結果として、「ひとにやさしいまち」ができるのではないかと考える。
- 子どもから高齢者まで、互いに助け合えるまちを目指してほしい。
- 最近、病気により、一時的にストーマを造設する人が増えており、様々不便な思いをしている状況を多くの人に理解してほしい。
- 優良企業や優良事例などについて、SNSなどで投稿できる仕組みで若者中心に情報発信したらよいと思う。まちづくりは、若い人の意見を最優先すれば、活性化するだろうし、やさしくなると思う。
- 車いす使用者用駐車区画は、外見では分かりにくい障がいがある人は停めづらいことがあると思うので、対象となる方に利用証を交付することは良いことだと思う。ただ、今回のアンケートでこの制度を初めて知ったので、広く周知する必要があると感じた。
- 公共交通機関の利用者のマナーの向上を求めたい。優先席は高齢者だけでなく、妊婦や障がいがある若者でも使用できるはずだ。バスの優先席に座っていた若い女性に「若い人は避けてくれ」と強い口調で声をかけた高齢者がいた。もしかしたら女性は、我々の目には見えないような障がいを持っていたかもしれないし、実は妊婦だったのかもしれない。年齢や見た目だけで判断してはならない。優先されて当たり前ではなく、お互いに思いやりの気持ちを持てると良いなと思った出来事だった。優先席にもっと目立つような表示、音声案内を付けてもいいかもしれない。
- 通学路の確保、整備が必要。
- 車いす使用者用駐車区画に、健常者が平気で駐車しているのを多々見かける。見た目が健常者だけでも、実は障がい者手帳を持っているかもしれないので指摘はできないが、妊婦や車いす使用者が利用できずに困ることもあるかと思うので、県で対応してほしい。
- 市民が全員参加できる仕組みづくりが必要
- 公共的な職についている人達が、住民に寄り添い、意見を聞き入れてくれるようなまちづくり、住民が互いに話し合い、声かけがしやすい地域づくりが望ましい。

<17ご意見ご要望自由記載>その2

- 現在、建設されている建物や道路などを見ると、ユニバーサルデザインのものが多く、誰もが住みやすいまちづくりがされていると感じる。
- 見た目の障がいだけでなく、内部障がいや精神障がいを抱えている人の気持ちも理解してほしい。
- 若い人を中心とした「やさしいまちづくり」を考えてほしい。
- 住民の意見を聴きながら、行政が計画を進めることが良いと思う。
- 子どもから高齢者までと対象は全ての人だと思うが、働き盛りや子育てに頑張っている世代へもやさしい心配りがほしいと思う。
- 行政と住民が懇談会等で話し合い、官民一体のまちづくりを推進してほしい。また、障がい者が普通に暮らせるまちであってほしい。
- 動き出すこと、一歩踏み出すことが大事だと思う。
- 既存の古い公共施設も修繕の際に、少しずつ改善していただければ、地域全体が誰に対してもやさしいまちになっていくと思う。
- ハード面も大切だがやさしい心やマナーを育てるソフト面も大切にしてほしいと思う。
- 高齢社会が進み、買い物弱者等が増えると思う。ひとにやさしいまちとは、誰もが生活するうえで不便を感じないことではないか。地域住民と行政とで構想を計画していくことが良いのではないかと考える。
- ユニバーサルデザインという言葉が先行、一人歩きをして、この言葉を知っているだけで、社会が全てユニバーサルデザインになったものと勘違いしている人も多いようである。
- ひとにやさしいまちづくりは、県民一人ひとり、健康状態、要求が異なるので、大変幅広く、捉えどころがない課題ではあるが、弱者にやさしいまちづくりの観点から考えればみんな納得すると思う。
- 県内中心部以外では、人口減少や担い手不足、若者離れが課題となっている。高齢者施策に力を入れるより、各地域に若者の働ける場を考えるなど、これからの世代にやさしいまちづくりがあっても良いと感じた。
- 高齢者による自動車事故が急増しており、公共交通の充実が必要なのではないかと思う。特に、人口減少や高齢化が進む中山間の過疎地やへき地には、交通弱者、買い物弱者が沢山生活している実状をもっと考えてほしいと思う。
- 道路や施設などは、やはり段差のない(少ない)方が歩きやすいし、利用しやすいと思う。
- 障がい者や高齢者に対する配慮ができるようにするため、教育に力を入れることが必要。また、ハード面を整備するためには予算が必要なので、補助金の拡大も重要だと考える。
- バリアフリーの充実はもちろんだが、人と人とのバリアフリーもとても大切だと思う。●公共施設をリニューアルしたところがあるが、2階に車いす使用者等の障がい者が入れない構造物を作っていた。認識を改めてほしい。
- 子どもの頃からの教育が必要だと思う。
- だれでも法的規制の中で自由、安全に利用できることが必要。
- 高齢者や障がい者の住みやすい地域は、他の人達にとっても住みやすい地域だと思う。
- 歩道と自転車用道路を区分してほしい。
- ただ設備を整えるだけではなくて、この状態では危なくないか、本当に使いやすいか常に確認して対応することも必要だと思う。施設の職員にも使い方、リスクなど周知してほしい。

＜17ご意見ご要望自由記載＞その3

- 一人ひとりが他人事と思わず、町中で不便を感じる人に声をかけたり、手助けをする意識が必要。
- 自然を上手に取り入れ、車なしでも暮らせるコンパクトシティで、家族だけではなく住民同士が助け合い支え合えるコミュニティが作られれば、ハード面に頼らないひとにやさしいまちづくりになると思う。まちづくりはハード面で捉えるととてもお金がかかるかもしれないが、ひとづくり、コミュニティづくりと考えればお金は一銭もかからない。どこに主眼を置き、どうこの問題を展開させるか行政の手腕にかかっていると思う。
- 比較的新しい施設については、バリアフリー設計だったりするが、古い施設は一部改修されている程度で、利用する者にしか使いづらい現状は分からないと思う。不便を感じている方が該当する施設に意見・要望を出さないと伝わってこない。声を拾い上げる努力をしてほしい。意見箱に意見が入っていないから皆満足しているんだという解釈は「やさしい」とは言えないと思う。
- 積雪時も夏場とほとんど変わらず外出できるまちづくりをしてほしい。
- 教育できる時間があつたほうが良いと考える。
- ユニバーサルデザインという言葉もひとにやさしいまちづくり条例があるということも全く知らなかった。今までどれだけ県政に対して無関心だったかということを実感した。私達も常に周りの人達のことを思って行動すれば、特別に条例や決まりごとを示さなくても暮らしやすい世の中になるのにと考えた。
- 過去にあつた震災地を視察し、10年後、30年後の状態を見通したまちづくりを進めるべきである。
- 住民一人ひとりの意見を行政が耳を傾け、一緒にまちづくりをしていくことが必要。
- 一言で言えば、心の教育が必要だと思う。
- 支えられる側の要望や意見を重視しすぎることは、軽視と同様に危険だと考える。無理せず持続できるようにすることが第一だと思う。
- スーパーなどで車いす用の駐車場に停めている人をよく見かける。啓発のため、テレビなどでCMを流したらどうか。
- 県民への理解浸透は一部のみであると思う。市町村がもっと行動すべきであり、県民と連携して取り組むきっかけがあれば良いと思う。
- 専門家の意見を県がまとめ、まちづくりを進めていけば良い。
- スピードが大事だと思う。
- ニュースでベビーカーを電車に持ち込むことを反対する人が2割もいると聞いたが、信じられない思いだ。みんなで子どもを育てる気持ちにならないといけないと思う。
- ひとにやさしいまちづくりを実践している市町村があれば、広く紹介してほしい。
- 障がい者を支援する職種の拡充が必要。
- 歳を重ねるうちに他人事ではなくなり、ひとにやさしいまちづくりに取り組んでいる施設などを見ると安心する。ただ、沿岸は、施設のほかに津波によってでこぼこの歩道やガードレールがなくなった道路がたくさんある。まずは、そこから対処する必要があるのではないかと思う。
- 県民一人ひとりがもっとユニバーサルデザインなどを意識し、行動することが大切だと思う。
- 東日本大震災で被災された方々を優先的に支援することこそ、今、大事なことだと考える。

<17ご意見ご要望自由記載>その4

- 「ひとにやさしいまちづくり」をする上で、大切なことは障がい者にとって暮らしやすい社会は、一般の人にとっても生活しやすい社会だということ。障がい者、子ども、高齢者が生活しやすい環境を社会全体で実現し、互いの心の壁を取り払い、相互協力、相互支援して行くことが大切だと思う。
- 新しい公共施設であっても、首をかしげたくなるような作りのものが多い。完成前に一般公開して、チェック機能を働かせた方が良い。一般の応募者から採用したり、障がい者も交え都市計画を練り上げてほしい。
- 阪神大震災の経験から、ハード面は早い時期に復興したが、ソフト面の部分のギャップが多く孤立死も多かったと聞いているので、コミュニティの充実が必要だと思う。
- ひとにやさしくとは、高齢者や障がい者だけでなく、全ての県民にとってやさしいものでなければいけないと思う。
- 歩行者にやさしい道路づくりをしてほしい。
- 人と関わりを持つことが必要。
- 「ひとにやさしい」という言葉は、人によって受け取り方が違うと思う。
- 行政自体がコンパクトに起動し、施策は決してコンパクトにせず、受動的に大きく反映するよう活動・計画していく必要があると思う。
- 車いす使用者用駐車区画に、車いすではない人が停めていたことがあり、注意をしたら「すぐ戻るからどうでもいい」と言われた。こういうことがないように何か考えなければいけないと感じた。
- 自分自身に深く直結した課題であるという意識の共有が必要。
- どのようなやさしいまちづくりになっているのか、全く様子がわからないので具体的な形を示してほしい。
- 意外に、気にかけていないところだったと、アンケートを記入しながら思った。これからは、「ひとにやさしいまちづくり」も気にして見るようになると思う。
- 自治体職員やNPOなどの職員以外にも、地域の高齢者や障がい者などを無償で支援している方々がいるので、そういった方々のモチベーションを高めることができるような評価をすればよいと思う。
- 地域の高齢者などの見守りをしているが、このような正規のボランティア団体がもっと増えると良いと思う。
- 施設の整備も大事だが、人に寄り添う人材を育てる方が第一と考える。
- 行政は常に、障がい者や高齢者、乳幼児を育てている人たちの声に耳を傾けるべきだと思う。文化施設やスポーツ、商業、観光施設においては、外観や備品にお金が随分かけられているように見えるが、肝心のバリアフリー、ユニバーサルデザインは、あまり重視されていないと感じる。
- 私たちのような20代は、不便だと思うことがあってもどのように意見等を伝えればいいのか手段がわからないことが多いと思う。「ここをこうした方が良い」など、気づいたことをもっと簡単に言えるようなツールがあれば、たくさんの人たちの思いや考えなどを聞く事が出来ると思うし、その中から行政はより良いまちづくりに必要だと思うものを取り入れていけば相互にとってよりよいものになっていくのではないかと思う。
- 「ひとにやさしい駐車場利用証制度」について、妊婦にとって、駐車場から歩くのは大変な時もあるので、産婦人科にポスターを掲示したり、母子手帳交付時に周知されるとより良いと思う。
- 皆が意識を変える必要がある。

<17ご意見ご要望自由記載>その5

- 被災地は、これから新しい道路、公共的施設などが建設されると思うので、新しいひとにやさしいまちづくりを期待している。
- ハード整備も大事だが「他人を思いやる心」を育てることの方がもっと大事。利他の心で接するような道德教育にこそ力を入れていくべきである。
- 今回のアンケートは、普段あまり考えたことがなかった内容だった。これからは考えていきたいと思う。
- 各広域振興局において、セミナーをさらに積極的に開催するなど、「ひとにやさしいまちづくり」に関する県民の意識啓発を更に推進する必要がある。
- もっと民間の意見や活力を利用して、スピード感をもって取り組むことが必要だと思う。
- 冬になると積雪で色々な事が更に不便になる。少しでも皆が動きやすいような取組みが必要だと思う。例えば、積雪がある日は、始業時間を遅くするなどして、皆で雪かきをし、高齢者や障がい者が活動しやすくする手助けになれば良いと思う。
- 特に、海沿いの地域は、初めから避難をしなくても安全な場所に学校を建ててほしい。車がなくても外出できるよう、バスや電車等を充実させてほしい。車いす使用者が安全に暮らせる環境を整えてほしい。
- 一般人の思いやりの心がもう少し育てば良いが、基本的な教育が不十分だと思うし、個人の生活、経済基盤が弱いと他人に思いを寄せる余裕に欠けるのかも知れない。他人から寄せられた思いやりに感謝する気持ちを忘れないことも大切。
- 自己中心的にならず、ちょっとした気配りを心がけることで、大分変わるのではないかと思う。大人が手本となるよう行動すれば、子供も真似すると思う。
- 車いす使用者用駐車区画について、健常者が利用して困る。
- モダンで便利な建物・施設が立派に出来ても、それだけでは人は安心感や満足感を得られないことが多いのではないか。コミュニケーションや優しい対応ができる人材育成が大事だと思う。
- 震災後のまちづくりについては、あまりに多くの意見が寄せられて、方針がなかなか決まらなかったようにも思う。同じように、これからのまちづくりについて意見が寄せられて、あまりに時間がかかりすぎるのも問題があると思う。駐車場の件など、よく利用する方の意見を吸い上げ、妥協点を聞いてもよいと思う。
- 繰り返し広報を続けてほしい。行政側も現地に出向き、意見、概要を聞いて調査してほしい。
- 自分が該当しなければ興味を持つことがないので、ほぼ無関心だった。啓発活動がもっと必要だと思う。
- 目に見えない内部障がいや視覚障がいがある方に対する配慮や支援が不足しているように感じる。なかなか当事者からの発信が少ないかとは思いますが、ニーズはあるはずだと思う。もっと細部にまで目配りしていただくことが、だれもが暮らしやすいひとにやさしいまちづくりへと繋がるのではないかと思う。
- 人と車が譲り合いの心で共存できる社会が理想。
- 障がい者が、外出したくても外出できない状況なのであれば改善が必要。親世代へ働きかけ、子供たちへの教育に取り入れることで空気が変わらと思う。
- スピードが大切だと思う。実際、どのようなことが必要なのか、不便を感じているのかについて、障がい者などの声を聞くべきだと思う。
- 「まちづくり」は少しでも多くの住民が参加できる場を提供することが行政の責任。まちづくりは、ひとづくりにもつながると思う。